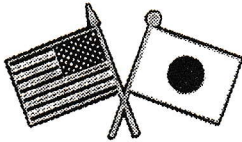


26 JUL 2005



第26号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：<http://www.bouei.com/groups/jaaga/>

平成17年度 年次総会・懇親会

役員交代；副会長に山口・細氏、監事に吉川氏
理事長に竹河内氏など

ライト在日米軍司令官が講演



Lt. Gen. Wright

平成17年度JAAGA年次総会が、5月11日グランドヒル市ヶ谷において講演会並びに懇親会と共に開催された。

総会は、出席者57名及び委任状提出者174名により成立、冒頭、故高巢英一会

員の御冥福を祈って全員で黙祷を捧げた。次いで村木会長から「平成17年度JAAGA年次総会の開催にあたり、会員多数の参加を得たことに謝意を表明。JAAGAは来年には10周年の節目を迎えるところ、多くの会員のこれまでの協力と支援に感謝したい。そしてこの間JAAGAの働き手とも云うべき各常務理事がボランティア精神のもと鋭意活動し、その成果としてJAAGAがより良く機能しているということ自負すると共に、こうした努力の積み重ねに敬意を表したい。とは云え、時間の流れと共に組織が動脈硬化をきたすおそれもあり、この点も考慮に入れて、本総会での議案審議は勿論今後種々の場面における客観的的大局的な御指導御鞭撻をお願いしたい。」旨挨拶し、終わりに全ての会員による継続的な協力と支援を要請した。

引き続き第1号から第5号までの議案審議に進み、平成16年度事業報告、同決算報告及び同会計監査報

告、並びに平成17年度事業計画案、同予算案及び役員を選任に関するそれぞれの議案について担当理事から説明を行い、予算規模と事業執行のバランス特に会勢拡大のために活動の充実化を図るべきこと等について若干の質疑応答が行われた後、何れも提案どおり承認された。

役員を選任については、退任する伊藤淳副会長及び後藤龍一副会長の後任に山口利勝氏及び細稔氏が、同じく退任する桑原武彦監事の後任に吉川武秀氏が、また吉川理事長の異動に伴いその後任に竹河内捷次氏が、それぞれ就任した。その他、副理事長に平田伸成氏、理事に川田哲雄氏が、そして内山好夫氏以下6名の常務理事がそれぞれ就任し、退任役員及び新任役員に対する盛大な拍手を以って総会は滞りなく終了した。

総会に続いての講演会は、在日米軍司令官兼第5空軍司令官 ブルース A. ライト中将が、米軍関係者や統幕及び空幕等の幹部をはじめとする内外招待者と会員の総計約180名を



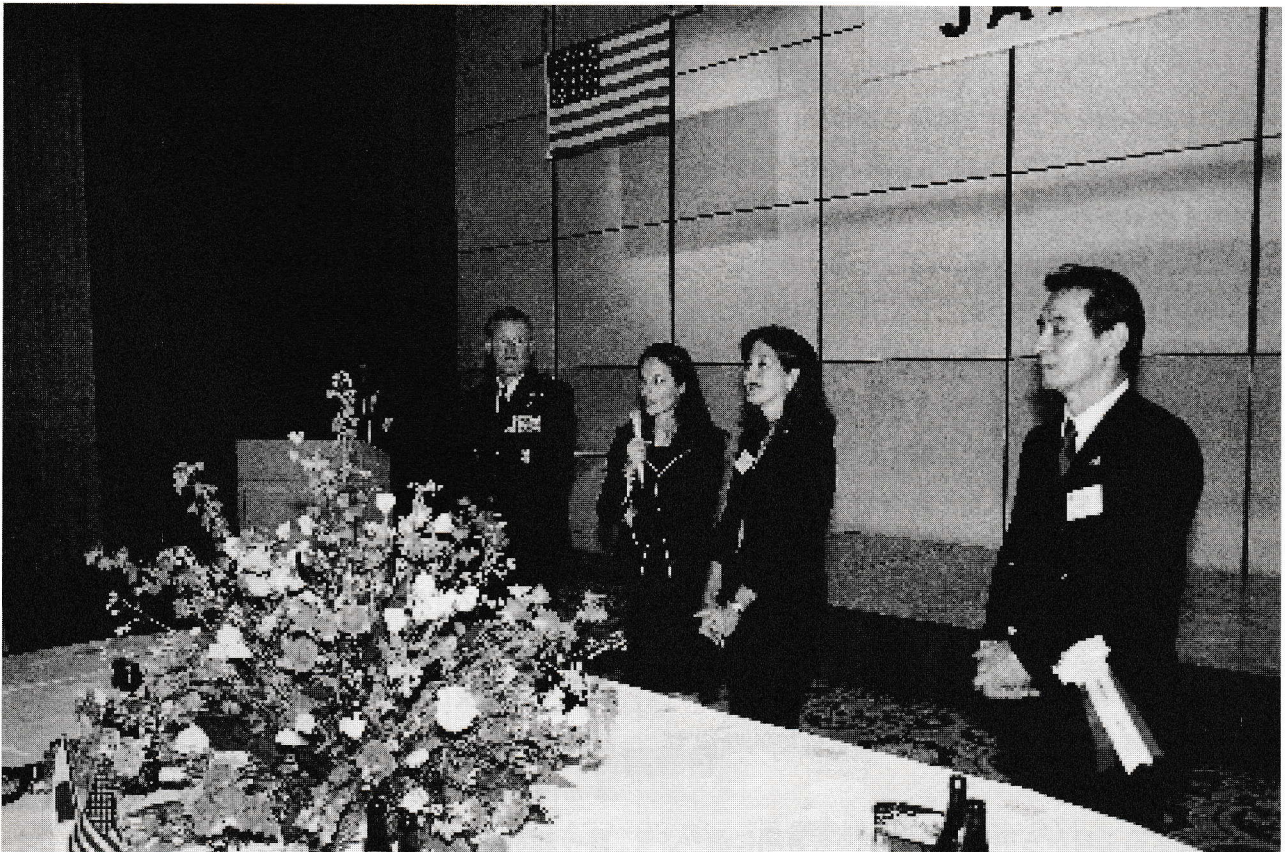
Guest Speaker

前に、「Joint Bilateral Command & Control

(統合共同指揮統制)の将来ビジョン」と題し、外国では初めてのブリーフィングとのコメントを付した上で、意欲的なブリーフィングを実施した。・・・冒頭、日米共同演習「キーン・スウォード(鋭い剣)」の状況がDVD表示されて臨場感漂う中、先ず自衛隊と米軍における統合共同指揮統制に係る変革の動きとして、来年3月の自衛隊統合運用体制への移行や同じく6月に計画されている日米共同演習「キーン・エッジ(鋭い刃)」を取り上げ、これらを背景として今後編成が予定されるJTF(統合任務部隊)の重要性を強調した。次にBMDにおける指揮統制という観点から、弾道ミサイル対処における衛星・AWACS機・イージス艦・ペトリオットミサイル・地上システム等による迎撃要領の一連の流れをわかり易く図示説明し、これらの複雑なシーケンスがシステム全体を通して円滑に機能するためには、日米双方の各コンポーネント間での情報共有と指揮統制の演習が極めて重要になると述べた。またBMDは

統合共同指揮統制に係る体制をレベルアップするための促進剤であると同時に、日米同盟の抑止力に関する信頼性の脈絡においても重要な位置付けにあると言及した。そして今後のビジョンとしては、統合共同指揮統制機能の向上とITの強化が日米同盟の変革・充実のための多大な機会を創出するものであると述べた。終わりに、統合共同作戦あるいはジョイントオペレーション等と云うと、それは直ちにコミュニケーション・ツールやシステムの構築ということに直結して発想されることが多いが、最も重要なことは「人と人とのつながり」であることを再度強調し、「ひとつの任務、ひとつのチーム!(One Mission, One Team!)」を結言として講演会を締めくくった。熱気溢れるブリーフ振りに会場満席の聴衆からも質問が相次ぎ、これを打ち切った満座大拍手の中、村木会長から謝辞と記念品が贈呈された。

会場を移しての懇親会は、講演会から引き続き参加の米5空軍関係者、外務省梅本北米局参事官、防

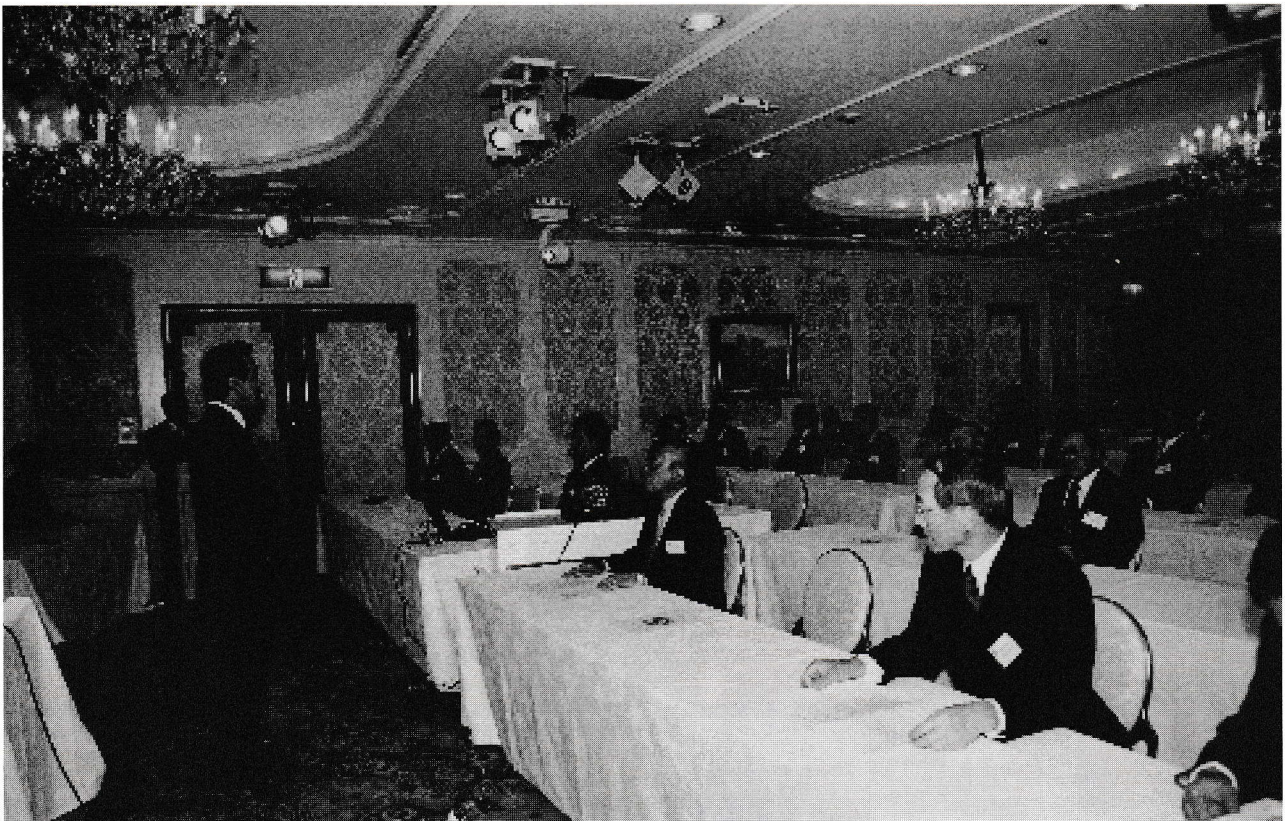


Reception at the Grand Hill Ichigaya

衛庁門司国際参事官、山崎 JANAF A (日米ネービー友好協会) 副会長並びに吉田航空幕僚長をはじめ空自主要幹部、香田統幕事務局長をはじめ統幕主要幹部、など多数の内外来賓出席のもと、先ず主催者村木会長から今般4度目の在日勤務となるライト司令官御夫妻に対し「お帰りなさい!」との切り出しで歓迎スピーチが行われた。この中で同会長は「ライト司令官が他の海外出張スケジュールを一部変更してこのJAAGA総会に参加し、講演会を引き受けて戴いたことに重ねて御礼申し上げます。日米同盟がよく機能している今こそ、更により良い関係の構築が目指されるべきであり、片務的關係からカウンタ・パートとしての協力関係に向けて日米双方の一層の努力が必要である。こうした状況の中で、今般ペンタゴンは在日米軍司令官として最適の人材を配置したのではないか。」と挨拶した。これに対し、ライト司令官は講演会で言及した「人と人とのつながりの重要性」を再度強調した上で、「日米双方の

エアマンの力を統合するために、JAAGAが結成されていることを誇らしく思う。」旨の謝辞スピーチを行った。これに続き、吉田航空幕僚長から「米空軍を見本として航空自衛隊が発足して以来昨年で50周年を迎えたが、こうした歴史を背景に最近における日米協力のトピックスとして、C-130輸送機のクエート派遣やコープサンダー演習におけるF-15戦闘機のアラスカ派遣に関し、米空軍から極めて多大な支援と協力を戴いたことをこの場で改めて紹介しておきたい。そして日米現役相互の掛け橋としてJAAGAの益々の発展を祈念したい。」旨の祝辞が述べられた。その後横澤新生つばさ会会長代理によって力強い乾杯の音頭がとられ、多数の賛助会員や日米両サイドの夫人を交えた何時になく華やいだ雰囲気の中、現役とOBの旧交を温める歓談の輪も随所に広がり、大盛会は時間を過ぎてようやく宴を閉じ、ここに第10回総会関連行事の全てが終了した。

(吉田常務理事)



General Assembly

第1号議案

平成16年度事業報告

(自平成16年4月1日～至平成17年3月31日)

第1 事業実績の概要及び会勢の現状

主要事業は、概ね計画どおり実施できた。特に航空自衛隊50周年記念関連行事を積極的に支援し、講演会、懇親会を盛会裏に運営できた。

平成16年度末の会員数は、392名・法人（正会員295名、個人賛助会員43名、法人賛助会員47法人及び名誉会員7名）であり、16年度当初会員369名・法人から正会員12名、個人賛助会員9名、法人賛助会員1法人及び名誉会員1名の増となった。

第2 事業等の実施状況

1 事業

- (1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等
16. 6.7,8 那覇基地、嘉手納基地において行われた
コープ・エンジェル（日米共同救難訓練）、
コープ・ノース（日米共同訓練）に参加
する隊員を激励した。（石津支部長、岩
崎常務理事参加）
16. 7.20 アラスカにおいて行われるコープ・サン
ダー（日米共同防空訓練）に参加する隊
員を総隊防衛部長に託して激励した。
（岩崎常務理事参加）
- (2) 米空軍隊員の激励等
該当がなかった。
- (3) 日米共同の行事等に対する支援
- ア 嘉手納スペシャル・オリम्ピックスの支援は未実
施であった。
- イ 16. 4.30 横田基地日本文化の日に越智理事が参
加した。
- (4) 空自基地及び米軍基地等の研修
17. 3. 2,3 賛助会員22名、正会員5名の合計27名の
参加を得て、那覇、嘉手納基地研修を実
施した。
- (5) 日米要人等の講演・講師派遣
- ア 会員および空自隊員を主対象とする講演
16. 4.27 総会実施時
講師：空幕防衛部長
演題：日米同盟の現状と問題点
聴衆：126名
16. 6.28 航空自衛隊創立50周年記念行事
師及び演題：竹田五郎氏「航空自衛隊創
設期の回顧」
佐藤行雄氏「活動が国際化する自衛隊に
求められるもの」
- 聴衆：約300名
- イ 米空軍隊員を主対象とする講演会等への講師等派
遣
- (ア) 講師派遣
米空軍の要望がなかったため、実施していない。
- (イ) J A A G A T a l k
米空軍の都合により、実施していない。
- (6) S P O R T E X ' 0 4
- ア SPORTEX'04-A
16. 6. 4（金）会員及び米空軍隊員を対象として
多摩ヒルズにおいて実施した。
参加者は65名〔4〕（会員：45名〔3〕、米軍：20
名〔1〕）であった。
〔 〕内は、ボランティアで外数
- イ SPORTEX'04-B
16.11.23（火、祝日）正会員、空自隊員及び米空
軍隊員を対象として多摩ヒルズにおいて実施した。
参加者は96名〔6〕（米軍：23名、空自：30〔2〕、
会員：43名〔4〕）であった。〔 〕内は、ボランティ
アで外数
- (7) 在空自基地米空軍将校等支援
- ア 16.10.25 横田基地において、江藤副会長からペー
カー副司令官に対し、日米下士官相互部隊研修の支
援金を贈呈した。（阪東、山本常務理事参加）
- イ 将校支援については、米空軍側からの要請がない
ため実施してない。
- (8) 米空軍隊員の史跡研修支援
賛助会員招待の日光等史跡研修支援は米空軍側の業
務の繁忙により実施できなかった。17年度に繰越し
となった。
- (9) 日米隊員の表彰
16. 7. 1 三沢基地においてタートル曹長（米空軍
下士官学校長）の退役に際し感謝状を贈
呈した。
J A A G A参加者：小澤支部長、山本事
務局長
17. 1.20 横田基地米空軍年度優秀隊員表彰式の場
において、米空軍第374輸空団クルーレ
ン大佐以下所沢燃料流出対処チーム並び
に総隊運用課（現空幕）秋元洋一1曹及
び中警団人事部遠藤登史准尉を優秀隊員
として表彰した。
J A A G A参加者：村木会長、榎常務理
事、松井常務理事

17. 1.28 三沢基地米空軍年度優秀隊員表彰式の場において、米空軍第35保全中隊ギブソン大尉並びに3空団施設隊今川徳治准尉を優秀隊員として表彰した。
J A A G A参加者：江藤副会長、小澤支部長、山本事務局長
17. 2. 5 嘉手納基地米空軍年度優秀隊員表彰式の場において、米空軍第18整備中隊トラウィック軍曹並びに83空検査隊村田健治3曹を優秀隊員として表彰した。
J A A G A参加者：後藤副会長、石津支部長
- (10) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇
16. 4.15 三沢基地において行われた第35戦闘航空団司令官交代式に小澤支部長が参加した。在日米軍司令官の交代（ワスコ中將からライト中將）に伴う行事を実施した。
16. 9.29 ワスコ司令官の送別会をグランドヒル市ヶ谷において会員約40名の参加を得て実施し、席上、村木会長から記念品を贈呈した。
17. 2.10 横田基地において行われた司令官交代式に杉山顧問、竹河内顧問、後藤副会長、山口副理事長夫妻他8名（奥様を含む）が参加した。
- (11) 日米安保等に関する広報活動
- ア 講演会等への講師派遣等
在日米軍広報部長ウォジンスキー大佐の帝京大学の学生等を対象とする講演会（16. 7. 6）への派遣を斡旋した。
- イ 米空軍に対する広報支援
適宜、米空軍広報記事を「だより」に掲載した
- ウ 米空軍の企業研修の斡旋
米空軍の計画がないため実施していない。
- (12) 在日米空軍各基地との連携の強化
- ア 主として渉外担当理事を通じ、5空軍、米空軍基地等との意志の疎通を図った。
- イ 16.12. 5 三沢基地司令官主催のX'masパーティに小澤支部長が参加した。
- 16.12.19 5空軍司令官主催のX'masパーティに伊藤副会長、後藤副会長、山口副理事長夫妻、阪東、山本常務理事夫妻が参加した。
- (13) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布
23号(16.7.28)、24号(16.11.29)、25号(17.3.29)の3回発行した。
- (14) 総会及び懇親会

16. 4.27 グランドヒル市ヶ谷において、会員63名（委任状173名）の参加を得て総会を実施し、15年度事業報告、収支決算報告、16年度事業計画、予算、役員を選任等が承認された。引き続き、懇親会を126名の参加を得て実施した。
- (15) 空白創立50周年記念行事等に対する支援
16. 6.28 グランドヒル市ヶ谷において、空幕長主催講演会およびそれに引き続くつばさ会主催懇親会を担当実施した。
講演会には、現役、OB、会員多数（約300名）の参加を得たほか、懇親会には384名（現役73名、OB248名、賛助会員63名）の参加を得た。
- ※ その他の事業
16. 4.20 J A N A F A総会に村木会長が出席した。
16. 8. 5 三沢支部は三沢基地准曹士会が行った米軍人・家族の青森ねぶた祭りへの参加を支援した。
16. 9. 9～ 9.24 つばさ会/JAAGA訪米団（村木会長以下4名参加）が米空軍各基地等を親善訪問した。
- 16.11.24 J A N A F A懇親会に後藤副会長が参加した。
17. 1.31 福生・横田交流クラブ新年会に村木会長以下4名が出席した。

2 運営管理

- (16) 会勢の維持・拡大
会勢拡大のため、積極的に入会勧誘を実施するとともに、退官予定隊員に対しては退官時期に合わせて案内状を送付した結果、16年度当初会員369名・法人から392名・法人（3/31現在）に拡大した。
正会員:295名、個人賛助会員：43名、法人賛助会員：47法人、名誉会員:7名
- (17) 会員名簿の作成・配布
計画どおり、本冊を7月、修正表を11月、3月に発行した。
- (18) 一般広報
関係広報誌等への投稿、情報の提供等を行うとともに、インターネット・ホームページを引き続き運営した。
- (19) 理事会及び常任理事会
理事会を4半期に1回、他の月（4月、8月を除く）には常務理事会を開催した。
理 事 会：6.18(金)、9.27(月)、12.15(水)、3.29(火)
常務理事会：5.17(月)、7.28(水)、10.26(火)、11.29(月)、1.26(火)、2.28(月)
- (20) 監査
17. 4.13 監査を実施した

第2号議案

16年度決算報告書

(平成16. 4. 1 ~ 17. 3. 31)

(単位: 円)

収 入			支 出		
区 分	予 算 額	執 行 額	予 算 科 目	予 算 額	執 行 額
前 年 度 繰 越	7,239,588	7,239,588	激 励 慰 問 費	100,000	0
年 会 費	4,420,000	4,327,800	事 共 同 訓 練 激 励 費	200,000	180,000
利 息	150	53	業 研 修 助 成 費	155,000	26,443
寄 付 金	-	-	費 表 彰 関 係 費	350,000	320,321
雑 収 入	-	-	友 好 親 善 行 事 費	1,600,000	831,709
			費 総 会 費	300,000	164,925
			広 報 費	1,335,000	1,195,378
			小 計	4,040,000	2,718,776
			名 簿 関 係 費	130,000	124,566
			会 則 関 係 費	40,000	0
			運 入 会 活 動 費	70,000	7,360
			管 支 部 運 営 費	90,000	0
			理 会 議 費	20,000	0
			費 事 務 費	70,000	64,393
			通 信 費	30,000	29,250
			旅 費	120,000	142,820
			雑 費	100,000	28,535
			予 備 費	500,000	0
			小 計	1,170,000	396,924
			支 出 計	5,210,000	3,115,700
			翌 年 度 繰 越	6,449,738	8,451,741
合 計	11,659,738	11,567,441	合 計	11,659,738	11,567,441

第3号議案

平成17年度事業計画

(自平成17年4月1日~至平成18年3月31日)

第1 事業運営方針

「J A A G Aの目指すべき方向について」(12. 9. 19 第20回理事会承認)に基づき、事業を着実に推進する。

特に、J A A G A創立10周年を来年に控え、会勢の拡大に努めるとともに、10周年記念行事の準備を開始する。

第2 実施事業等の概要

1 事業

- (1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等

実施事項: 訓練参加隊員の激励・慰問

対象訓練: コープ・ノース、コープ・エンジェル、
コープ・サンダー等

時 期: 日米共同訓練実施時

- (2) 米空軍隊員の激励等

実施事項: 米空軍隊員の激励・慰問

訪 問 先: 三沢、横田、嘉手納

時 期: 必要に応じ実施

- (3) 日米共同の行事等に対する支援

実施事項: 嘉手納、三沢における日米隊員の友好ス
ポーツ大会等への支援

時 期: 大会等実施時

- (4) 日米要人等の講演・講師派遣

ア 会員及び空自隊員を主対象とする講演

(ア) 第5空軍司令官講演

時 期: 平成17年5月11日(水) (総会実施時)

対 象：正会員及び賛助会員、空自隊員

(4) 要人等の講演

時 期：平成17年11月

講 師：別途調整

対 象：正会員及び賛助会員、空自隊員

イ 米空軍隊員を主対象とする講演会等への講師等派遣
講 師 等：会員の中の適任者（通訳は、必要に応じ米軍が準備）

実施要領：基地司令講話時等、米空軍側の要望（日時、場所、演題等）による。

(5) SPORTEX'05

ア SPORTEX'05-A

場 所：多摩ヒルズ

参 加 者：会員及び米空軍隊員 約100名

時 期：平成17年6月3日（金）

イ SPORTEX'05-B

場 所：多摩ヒルズ

参 加 者：正会員、空自隊員及び米空軍隊員 約100名

時 期：平成17年11月23日（水、祝日）

(6) 米空軍、空自間の各種交換・交流活動等支援

実施事項：米空軍と空自の間において実施される各種交換プログラム、交流活動等への支援

対 象：① 日米下士官相互部隊研修に参加する日米隊員

② その他要請に応じ日米交換幹部計画等米空軍空自交換・交流活動に参加する日米隊員

(7) 米空軍隊員の日本交流等支援

ア 米空軍隊員の史跡研修支援

実施事項：賛助会員招待の日光等史跡研修支援

対 象：米空軍隊員（夫妻等10名基準）

時 期：1／四半期

イ 米空軍隊員の地域行事参加支援

実施事項：三沢基地准曹士会が行う米空軍隊員及び家族のねぶた祭り参加支援

時 期：平成17年8月

(8) 日米隊員の表彰

対象基地：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇等

表彰人員：各基地日米隊員1名基準

時 期：米空軍記念日等関連行事実施時

(9) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内

時 期：都度

(10) 日米安保等に関する広報活動

ア 講演会等への講師派遣等

実施事項：部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米軍要人等の講師の派遣斡旋

実施要領：主催者側の計画（日時、場所、経費、その他）による。

イ 米空軍に対する広報支援

実施事項：米空軍が準備する広報記事を「だより」に掲載（「だより」紙面の提供）

実施要領：米空軍（横田基地広報部）との調整による。

ウ 米空軍の企業研修の斡旋

実施事項：米空軍が研修を希望する民間企業との調整、斡旋

実施要領：米空軍の計画（研修企業、日時、その他）による。

エ 大学生等の米軍基地研修支援

実施事項：主任教授等を通じた大学生等に対する米軍基地研修の紹介と研修支援

実施要領：研修者の希望に応じ、米空軍とその都度調整する。

(11) 在日米空軍各基地との連携の強化

対象基地：三沢、横田、嘉手納

実施事項：①各基地との緊密な調整、広報資料の提供等

②オープンハウス等各種基地行事への参加

(12) 空自基地及び米軍基地等の研修

ア 賛助会員研修

実施事項：賛助会員の空自及び米軍三沢基地における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等

時 期：2／四半期

イ 正会員研修

実施事項：横田基地における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等

時 期：2／四半期

実施要領：米空軍との調整による。

- (13) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

発行回数：3回（7月、11月、3月）

- (14) 総会及び懇親会

日 時：17年5月11日（水）

場 所：ホテル・グランドヒル市ヶ谷

- (15) 10周年記念行事の準備

実施事項：準備委員会の設立

時 期：1／四半期

2 運営管理

- (1) 会勢の拡大

実施事項：協会のPR（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内

実施要領：① 会勢拡大のため、積極的に入会勧誘を実施

② 空自退官予定隊員に対しては退官時期に合わせて案内状を送付

③ 業務管理講習時等におけるPRの強化

- (2) 会員名簿の作成・配布

発行回数：本冊1回、修正表2回

時 期：本冊（7月）、修正表（11月、3月）

- (3) 一般広報

実施事項：① 関係広報誌等への投稿、情報の提供

② インターネット・ホームページの運営

- (4) 理事会及び常任理事会

理 事 会：四半期毎に1回基準

常務理事会：理事会を開催しない月毎に1回基準

（8月を除く。）

- (5) 監査

実施事項：前年度収支決算及びJ A A G A事務備品の監査

時 期：4月

第4号議案

平成16年度予算

（単位：円）

収 入		支 出	
区 分	予 算 額	予 算 科 目	予 算 額
前 年 度 繰 越	8,451,741	激 励 慰 問 費	100,000
年 会 費	4,054,500	事 業 費	300,000
利 息	150	研 修 助 成 費	155,000
寄 付 金	—	表 彰 関 係 費	400,000
雑 収 入	—	友 好 親 善 行 事 費	1,130,000
		費	500,000
		広 報 費	1,075,000
		小 計	3,660,000
		運 営 管 理 費	120,000
		名 簿 関 係 費	40,000
		会 則 関 係 費	70,000
		入 会 活 動 費	90,000
		支 部 運 営 費	20,000
		会 議 費	70,000
		事 務 費	30,000
		通 信 費	129,000
		旅 費	100,000
		雑 費	200,000
		予 備 費	869,000
		小 計	4,529,000
		予 算 計	7,977,391
		翌 年 度 繰 越	12,506,391
合 計	12,506,391	合 計	12,506,391

役 員 の 選 任

職 名	氏 名	
会 長	村木鴻二	
副 会 長	江藤兵部、山口利勝（新任）、細 稔（新任）	
監 事	吉川武秀（新任）、中司崇	
理 事 長	竹河内捷次（新任）	
副 理 事 長	平田伸成（新任）	
理 事	大串康夫、川田哲雄（新任）	
常 務 理 事	総 務	香川清治（新任）、高島秀雄、岡本秀夫（新任）
	企 画	森和彦、清水正睦、岩崎克彦、石黒正昭、市野耕人、 安宅耕一（新任）
	会 員	村岡亮道、尾崎利夫、宇都宮靖、新井洋一
	渉 外	榎 利美、阪東政詮、松井 健、渡邊聖夫、山本隆之（新任）
	財 務	内山好夫（新任）、北村善信、高橋健二（新任兼務）
	広 報	岡本智博、越智通隆、四ッ家邦紀、吉田松徳、 蜂谷治幸、村田博生、高橋健二（新任）

【退任】副 会 長：伊藤惇、後藤龍一
 監 事：桑原武彦
 理 事：木村忠信
 常務理事：橋本康夫、鈴木善雄

顧 問	上田泰弘、白川元春、平野晃、竹田五郎、山田良市、森繁弘、 大村平、米川忠吉、鈴木昭雄、長谷川孝一、石塚勲、石川吉 夫、杉山蕃、横澤彰夫、平岡裕治、遠竹郁夫、伊藤惇（新）、 後藤龍一（新）、津曲義光（新）
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

講演等の要望を募ります

「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供など
 に関する論議がしばしば行われる昨今、事務局で
 は日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

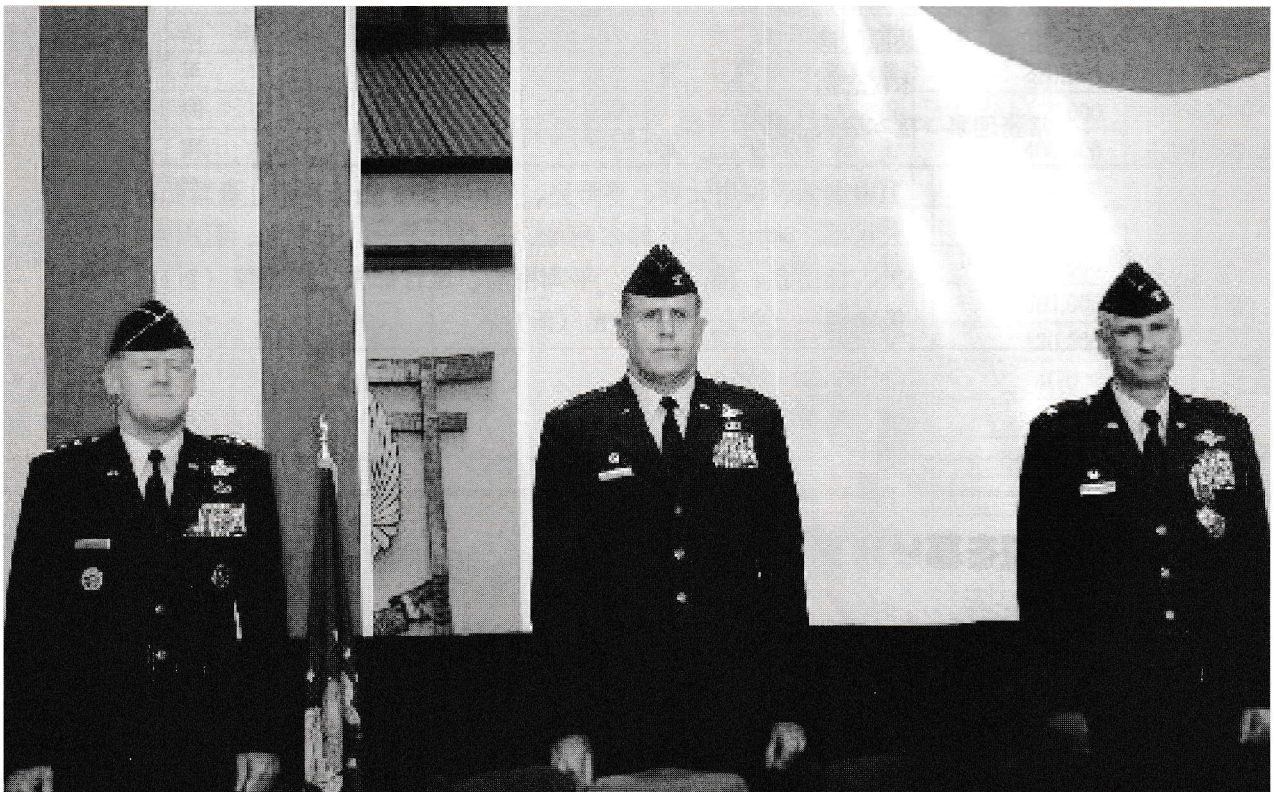
ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、
 懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要
 望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

第374空輸航空団司令兼横田基地司令

スコット P.グッドウィン大佐着任

6月1日(水)横田基地司令シスラー大佐の後任に、米国アーカンソー州のリトルロック基地からスコット P.グッドウィン大佐が着任した。当日午前、着任行事の指揮官交代式が第5空軍司令官ライト中将統裁の下に、基地格納庫に於いて第374空輸航空団の兵員を前に、多くの招待者及び家族の見守る中、厳粛に執り行われた。当協会から越智、榎、阪東、松井各常務理事が列席した。交代式は軍楽隊の演奏をバックに3人の司令官が登場、日米両国旗・軍旗の登場、両国国歌の吹奏の後、ライト司令官から離任するシスラー大佐の功勞に対し勲章を授与した。その後、新着任のグッドウィン大佐を紹介し、指揮官旗を手交して指揮権の継承を行なった。スピーチ

台に立ったシスラー大佐は、着任以来2年に亘る横田基地勤務の思い出を語り、また「可能ならば何時の日かこの素晴らしい日本の地に於いて指揮官として帰ってきたい」と述べ、離任の挨拶とされた。続いて登壇した新基地司令のグッドウィン大佐は「最も栄光と歴史に富んだ第374輸送航空団の指揮官として着任できた事を光榮に思う」と力強く抱負をのべた。式典後は、将校クラブにおいて歓迎レセプションが行なわれ、基地主要将校と多くの招待者との和やかな交歓の場となった。なおシスラー前基地司令は、統参本部J-5に栄転となり4度目のペンタゴン勤務となった。(越智常務理事記)



Change of Command Ceremony at Yokota AFB

「コープ・サンダー05」部隊を激励 訓練参加部隊を激励、訓練指揮官の宮川1佐から礼状届く

米空軍主催の多国間演習「コープサンダー05」が、6月10日から6月25日の間アラスカ州エメンドルフ、アイルソン両空軍基地で実施された。空自部隊は平成8年度から本演習に参加しており今回で9回目となるが、今回は人員約210名、F-15戦闘機6機、E-767早期警戒管制機1機、基地防空部隊（携SAM訓練器材6セット）が参加、電子戦環境下での防空戦闘、基地防空訓練を実施し、戦術技量及び日米共同対処能力を向上させた。

訓練参加部隊は、5月31日に訓練指揮官以下本隊が千歳から、また6月2日にはF-15（千歳）、E-767（浜松）が出発し、米軍との調整、慣熟飛行を実施する等万全の準備を整え本格訓練に臨んだ。

本演習にあたり6月13日、JAAGAを代表して岩崎常務理事から航空総隊司令官田母神空将に対し本演習参加日米隊員の懇親等のために役立てていただ



くべく激励金が贈呈された。

激励金は訓練視察でアラスカに出張中の岩切総隊司令部防衛部長から訓練指揮官の2空団飛行群司令宮川1佐に手渡され、宮川1佐からは下記の礼状が協会宛に届いた。
(蜂谷常務理事記)

コープ・サンダー訓練参加部隊からの礼状

2空団飛行群司令の宮川です。現在、隊員約200名とともにアラスカにおけるコープサンダー訓練に参加中です。本日、岩切総隊防衛部長より、JAAGA様からの激励金をありがたく頂戴いたしました。隊員一同を代表いたしまして心より御礼申し上げます。ありがとうございます。さて、訓練は順調に進捗しており、あと数日で撤収となりました。コープサンダー訓練の中身の充実度は年々向上しており、日米共同の進化を身を持って強く感じております。

また、訓練自体は回数を重ねていますが参加する隊員は初めての者が大部分という状況ですので、常に「初心を忘れることなく」気を引き締めて参加しております。

JAAGA会員の皆様には、常日頃から日米友好親善と相互理解のためご尽力いただいていることに感謝いたしまして、この場をお借りして円滑に訓練を実施中の部隊より御礼申し上げます。

今後ともよろしく願いいたします。

SPORTEX'05Aの実施結果の概要



First Party

JAAGA恒例のSPORTEXが昨年度から春・秋の2回開催されることになり、本年度第1回目のSPORTEX05Aが6月3日(金)、米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて当協会から村木会長以下正会員及び賛助会員の計42名、また米側からライト5空軍司令官以下の計19名、日米合わせて61名の参加のもと開催された。前日の天気予報では午前中は確実に雨とのご託宣に参加者一同は雨具の準備怠りなく、また覚悟しての集合であったが一同の常日頃の心がけに天気の神様もお情けを掛けて下さって心配した雨は競技開催中に一度も降ることもなく、楽しくプレーに没頭する事ができた。ライト司令官は4度目の日本勤務で、特に10年前に日米J-3同士のパートナーであった山口副会長をはじめ旧知の協会会員と久しぶりのゴルフ場での再会となり大いに話が弾んだ。半年に一度の開催となり運営も慣れ年一度のときに比べ全てがスムーズに運んだように思えた。なお、米側2名、日

本側5名のボランティアが大会運営を支援した。今回は11月23日(水)(祝日)に開催予定されており今からスケジュールに入れて頂ければ有難いと思います。
(越智常務理事記)



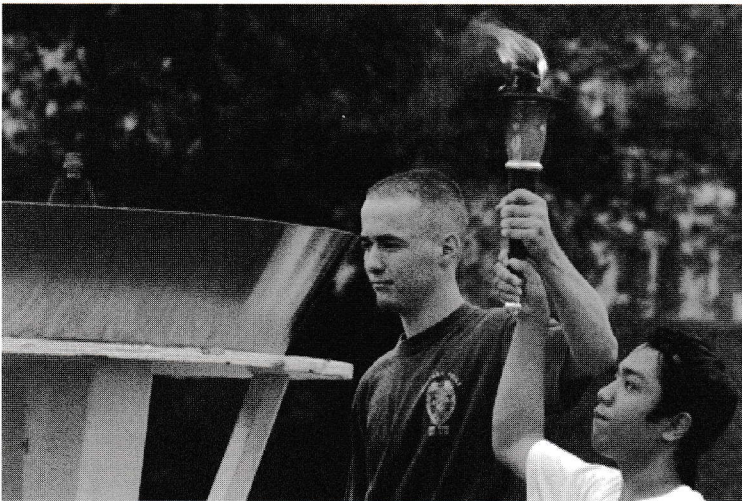
Ceremony at Club House

'05嘉手納スペシャル・オリンピックスに参加

6月11日に予定されていた米空軍嘉手納基地主催のスペシャル・オリンピックスは、沖縄の集中豪雨のため、6月18日に延期開催された。前日の夕方は雷雨で、翌日の予報も午前中は雨模様であり、天候が心配されたが、嘘のような晴れとなった。航空自衛隊那覇基地司令の滝脇空将補、JAAGAから石津沖繩支部長と細副会長が参加した。延期となったため、シーファー駐日米国大使が欠席されたのは残念であったが、嘉手納基地司令ジュアス准将以下の主要メンバーにスペシャル・オリンピックスへの米軍の尽力に対して感謝を申し上げると共に、3月に実

施されたJAAGA賛助会員研修の支援に対する参加会員からの賞賛の言葉をお伝えしてお礼を申し上げた。競技参加者は約900人、付添いが約3,000人、通訳ボランティア約400人、米軍から約1,500人、空自那覇基地の曹士会からもボランティア参加があり、ハンディキャップ・アートの展示等多彩なイベントであった。夜来の雨のために、フィールドの芝がぬかるんでおり、皆さんの足元を不自由にしたのは残念であった。米空軍が払っているこれだけの努力を、多くの人達にもっと知ってほしいものと思った。

(細副会長記)



Olympic Torch



Special Olympic

JAAGA会員林昭彦氏、ヨットで世界一周の壮途に

JAAGA会員の林昭彦氏が艇長をつとめるヨット「リバティ号」が5年をかけての世界一周の航海に出発した。6月30日(木)にはハワイに入港する等、航海は順調な模様である。同氏は一昨年まで当協会の常務理事で対米空軍調整の中核でしたが、現役時代からの夢であるヨットによる世界一周のため、常務理事の職を辞し、準備に専念されてきた。日本のヨット会では伝説的なレッド・シャーク号に乗り組み訓練を受けるとともに、海技免許・無線免許等の資格を取得し、大航海の準備に万全を期した。

氏は「せっかく退職したのだから、退職者にしか出来ないこと、つまり時間が贅沢に使えることを最大限に活用し、やりたいことに集中しようとの発想」で、「世界各地で名所を巡り、旧友との再会等を図るとともに歴史上の先人達の足跡を辿る旅でもある」と言っている。出航前日の5月22日(日)に池袋で開かれた壮行会には約200名の方々が集まり、氏の趣味仲間でもあるウェスタン・バンドの演奏を聞きながらの大激励会となった。協会から村木会長以下約20名が参加し、壮途を祝した。パーティには氏の顔の広さを物語るように各界から多彩な方々が出席された。パーティ終了後、クルーはその足でリバティ号の母港である福島県の勿来に移動した。翌23日(月)、午後2時多くの人達に見送られて最初の寄港地ハワイに向け出港した。6月11日(土)日付変更線通過、6月14日(火)ミッドウエーに計画外寄港、6月29日(水)に寄港地ハワイに到着。日本からの応援団(団長:大串理事)がハワイに前進し、現地での交流会に参加した。大串氏は「日焼けし、チョットスリムに、また逞しくなったクルーは元気一杯、自信に満ち白いアゴヒゲを伸ばした風貌は正に『老人と海』と述べた。7月2日(土)、旧知の太平洋空軍司令官ヘスター大将主催による大



Captain Hayashi (Maj Gen.Ret.) and crews

歓迎会が開かれた。8月にはハワイを離れ、北米シアトルに向かう予定だ。クルーは林昭彦氏の外、林義明氏(昭彦氏の兄)、石川陽一氏(昭彦氏の高校の同級生)、富永憲一郎氏(昭彦氏の防衛大同期生、海上自衛隊OB)、林洋子さん(昭彦氏の妻、ハワイで合流)の合計5名。5年後の帰港時、艇長は68歳となるがマダマダ若い。航海予定の概略は本年末サンディエゴ、来年はパナマ越えで年末はフロリダ、2007年は北米東海岸・英国を回りポルトガルで越年。2008年、地中海を周遊して年末はカサブランカ。翌2009年はカナリア諸島から喜望峰を回りジャカルタで年越し。2010年はベトナム、香港、台湾、那覇、神戸と回り、6月に母港・勿来に帰港予定となっている。世界の各寄港地で彼らと交流する有志によるツアーも計画されると聞いている。帰国時の土産話が楽しみだ。リバティ号の支援ホームページは氏の令嬢が運営し、そのURLは<http://www.ne.jp/asa/hi/liberty/sevenseas/>でホーム・ページには周航計画、日々の現況等を見ることが出来る。リバティ号はHAM無線局(21.397Mhz)を開局しているので興味のある方はコンタクトを試みるも面白い。祈・航海安全! (四ッ家常務理事記)

… 新入会員の紹介 …

1 正会員

氏名 勤務先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
津 曲 義 光	151-0053	渋谷区代々木5-33-2-206	03-3468-0781
日 本 電 気 (株)	101-0065	千代田区西神田3-1-6 日本弘道会ビル	03-5210-4825
香 川 清 治	275-0026	習志野市谷津5-36-18-202	047-493-1822
全 日 本 空 輸 (株)	105-7133	港区東新橋1-5-2 汐留めシティセンター	03-6735-1518
大 見 川 一 夫	212-0051	川崎市幸区東古市場42-202	044-549-6561
第 一 通 商	212-0051	川崎市幸区東古市場42-202	044-549-6561

2 個人賛助会員

氏名 勤務先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
中 村 英 一	606-8314	京都市左京区吉田下大路町59-1	075-771-6125
(株) 吉 田 山 荘		同	上

3 法人賛助会員

法人名 代表者	〒	住所・電話番号	
(株) N T T データ 村 松 充 雄	135-6033	江東区豊洲3-3-3豊洲センタービル30F	03-5546-8422

会 員 募 集

J A A G A は、今年で創立 9 周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に努めております。

会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。

なお、個人会員につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊のOB

個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員 3 名の推薦が必要です。

【連絡先】

【郵便】 〒105-0004 東京都港区新橋 5-25-1-3

日米エアフォース友好協会 会員担当行

【電話】

03-3489-1120 尾 崎 利 夫 (東京航空計器(株))

03-6716-4303 村 岡 亮 道 (三菱重工(株))

03-5400-4722 宇都宮 靖 (横浜ゴム(株))

03-3286-0339 新 井 洋 一 (新東亜交易(株))

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは？

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は？

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか？

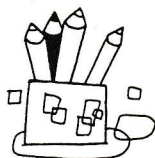
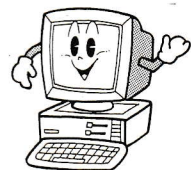
A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたく思います
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています



投稿受付

越智 通隆 Tel 03-3437-8972 (三井物産エアロスペース)
Fax 03-3437-8755